

高松医療センター



Medical News

私達は、患者さんとそのご家族の立場に立った医療の推進に努めます

院長就任のご挨拶

令和6年4月より細川院長の後任で高松医療センターの院長に就任いたしました市原典子と申します。謹んで皆様にご挨拶させていただきます。

私は1991年に香川医科大学（現 香川大学医学部）を卒業し、卒業後3年目の1993年から当院に勤め、まもなく30年が経過します。当時の病院名は「国立療養所高松病院」で結核医療と脳血管障害のリハビリテーションを中心とし、50床の神経病棟には脳血管障害後遺症の方やパーキンソン病患者さんがおられました。当時、就任後まもない院長は神経内科が専門で、その後の約10年間で筋萎縮性側索硬化症を中心とした神経難病患者さんの入院がほぼ100名にまで増え、2004年には独立行政法人化すると同時に香川県難病相談支援ネットワークの拠点病院となりました。私は神経内科に所属しておりましたので、神経難病の診療をおこないつつ神経難病の嚥下障害の評価・治療や呼吸管理、栄養管理をテーマとした臨床研究もおこないました。

その後、院長の交代に伴い病院の運営方針が見直され、循環器を中心とした一般医療に重きを置き救急も積極的に受け入れるようになりました。その間も神経難病・結核等のセーフティーネット医療は継続して行い、急性期医療とセーフティーネット医療の2本立てという非常に特異な体制を取っておりましたが、2010年頃より徐々に急性期医療を担う医師が減少し、再び診療体制の見直しを迫られることとなりました。

2013年に前任の細川院長に交代となり、その後の約10年間は急性期部門の機能を転換し、セーフティーネットおよび回復期に主力を置きながら地域を支える病院にすべく、長い苦難の道を職員一丸となって歩んでまいりました。そして現在、4個病棟全てが看護体制7：1の障害者病棟（入院患者の7割以上が神経筋難病の患

院長
市原 典子
ICHIHARA Noriko



者さん、あるいは脳卒中や認知症を原因としない身体障害1・2級相当の肢体不自由の患者さん）となり、内2個病棟では重度の身体障害を持ちかつ高度な医療的ケアが必要な患者さんを対象に、療養介護事業（80床）、医療型障害児入所（8床）をおこなっております。この特殊な機能を有する4つの病棟を効率よく運用して、治療後の回復に時間を要する高齢者や障がい者の退院支援はもちろんのこと、介護者を支えるためのレスパイト入院や医療型短期入所、良質な在宅療養の維持を目的とした在宅サポート入院等もおこなっています。また、回復期のリハビリテーションだけでなく、年齢や障がいの程度に合わせた慢性期機能維持のためのリハビリテーション入院も可能です。長期入院では、慢性疾患の進行期の患者さんや癌患者さんの苦痛を緩和しQOLの維持・向上に配慮したケアを提供します。さらに療養介護病棟では、高度な医療と良質な介護を合わせて提供することで、より質の高い療養環境を目指しております。

アフターコロナにおいて、患者さんの行動変容等による患者数減少が続いており、さらに燃料や医療資材等の価格高騰による支出の増加、2025年問題・2040年問題による医療従事者の不足や診療報酬の制限など非常に厳しい医療環境の中、今後の病院経営はますます困難になることが予測されます。しかし、こういう時だからこそ目先の利益にとらわれず、患者さん、近隣の医療機関、行政などの地域ニーズや医療環境の変化を敏感にとらえ、柔軟な発想で変化し続ける必要があると考えております。当院の特殊性にさらに磨きをかけ、地域に貢献しつつ持続可能な病院であり続けることができるよう精進してまいりますので、皆様にはご指導の程よろしくお願い申し上げます。

新任のごあいさつ



New Greeting

2024年4月より副院長を拝命いたしました、東條泰典です。就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。私は医師生活9年目の2005年4月より当院に勤務しており、今年で20年目となります。長期にわたって勤務したため、当院の変遷を実体験してきました。私が当院に赴任した当初、当院は急性期疾患と神経難病を中心とする慢性期疾患の両輪で診療していました。その後診療科の減少や患者層の変化から、

前院長細川、現院長市原を中心とした病院改革により、全病棟を障害病棟として神経難病や呼吸器専門医療、内科一般医療を中心とした慢性期疾患に特化した病院に生まれ変わりました。副院長就任にあたって、これらの改革路線を引き継ぎ、さらに当院でしかできないような医療をおこなう唯一無二の病院にするべく精進する所存です。何卒よろしくお願



副院長
東條泰典



この度、令和6年4月1日より看護部長を拝命いたしました小笠原あゆみと申します。看護部の目指す看護師像は「人間性豊かな感性と高い倫理観を持ち、根拠に基づいた看護実践で、患者の「生きる」を支える、自律した看護師」です。当院は、神経難病などセーフティネット医療を提供しており、自ら意思決定することが困難な患者さんも多く入院されています。

看護師には、患者さんの権利が脅かされな

いよう擁護し代弁することが求められ、倫理カンファレンスなどを通して倫理観の醸成を図っています。また、病気の進行に伴い、人工呼吸器を装着している患者さんには、透明文字盤を使用し、少しのサインから希望や思いをくみ取りケアを行っています。患者さんの「生きる」を支えることができるよう看護部全体で成長できる組織づくりを目指していきます。どうぞよろしくお願



看護部長
小笠原あゆみ



4月より地域医療連携副室長を担当しております、神経内科の國土と申します。当院は、香川県の難病相談支援ネットワークにおける神経筋疾患の分野別拠点病院であり、私は主に神経筋疾患の患者さんの地域連携を担当しております。

当院では長く筋萎縮性側索硬化症(ALS)の患者さんを多くご紹介いただいておりますが、近年、パーキンソン病、多系統萎縮症、筋強直性ジストロフィーといった、ALS以外の神経筋疾患の慢性期診療にも力を入れています。在宅環境調整を目的とした入院、長

期での療養を目的とした入院、パーキンソン病の身体機能向上を目的としたリハビリテーション入院など、患者さんのニーズに合わせた診療を提供させていただいております。

神経筋疾患は多くの医療サービスの利用が必要となり、地域連携が特に重要な領域と考えております。皆様とご相談させて頂きながら、よりよい医療を提供する一助になればと存じます。

どうぞよろしくお願



神経内科部長
國土曜平



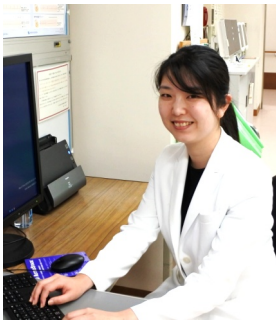
4月より地域医療連携係長を拝命いたしました、兒玉と申します。当院での勤務は4年目となり、地域で生活される患者さんにとって私たちの関わりは、地域と患者さんを繋ぐ重要な役割だと実感しています。そして当院は、このような患者さんやご家族がより生活しやすく、ご希望に沿った生活の場

の調整がおこなえるよう多職種でQOLを考慮した関わりを目指しております。

地域医療連携室一同、地域の皆様と連携しながらご家族を含み患者さんの支援をおこなって参りますので、よろしくお願



地域医療連携係長
兒玉真穂



所 属：神経内科 医師

氏 名：榊原奈津子

ひと言：4月より神経内科医師として勤務しております榊原奈津子と申します。今までは急性期病院で勤務しており、神経筋疾患、変性疾患の慢性期を中心とした診療は自身にとって新しい発見の連続です。一方で至らない点も多くありご迷惑をおかけしていることもあると思いますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



所 属：看護部 外来師長

氏 名：森本朋代

ひと言：4月1日付けで高知病院から赴任してきました森本朋代と申します。趣味は、和太鼓です。子どもが習っており、一緒に通い楽しく叩いていました。まだまだ管理者として未熟で至らぬ点多々あると思いますが、一生懸命、丁寧に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



New Face 紹介



所 属：診療放射線技師長

氏 名：笠井慎也

ひと言：この度令和6年4月1日付で国立療養所大島青松園より参りました、診療放射線技師長の笠井慎也と申します。高松医療センターの一員として、各分野のスタッフの皆様からのご指導・ご協力をいただきより安全・安心な検査・処置の遂行に努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



所 属：リハビリテーション科 副理学療法士長

氏 名：植西靖士

ひと言：広島西医療センターより赴任し参りました副理学療法士長の植西靖士と申します。パーキンソン病ブラッシュアップ入院や在宅サポート入院など当院ならではの取り組みに参加できることを今からワクワクしております。リハ科が少しでも皆様のお役に立てるよう精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



所 属：療育指導室 主任指導員

氏 名：有吉博史

ひと言：高知病院より参りました、主任児童指導員の有吉博史と申します。趣味は、魚釣りです。松江医療センター、四国子どもおとなの医療センター、広島西医療センター、高知病院を勤務してきました。他施設での経験をいかして利用者さんが少しでも笑って過ごせるようお手伝いできたらと思います。色々ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしくお願い致します。

外来診療担当一覧表

診療受付：8：30～11：30

診療時間：8：45～17：15

令和6年6月1日現在

診療科		月	火	水	木	金
内科	午前	大森 実	糖尿病 細川 等	糖尿病・禁煙外来 細川 等	糖尿病 細川 等 内科 山野 智子	
	午後	山野 智子	糖尿病 細川 等			
神経内科	午前		市原 典子	第1週 千葉 雄太 第2・4週 渋谷 佳子 第3週 榊原 奈津子		小児神経内科 第1・3週 多田羅 勝義
	午後	国土 曜平				小児神経内科 第1・3週 多田羅 勝義
呼吸器内科	午前	東條 泰典	田所 明	二見 仁康		田所 明
	午後			東條 泰典		
消化器内科	午後			松木 美知子		
循環器内科	午前			辻 哲平		ペースメーカー外来 (隔週)飛梅 淳 (隔週)守家 聖二
	午後		水重 克文			第2・4週 水重 克文
整形外科	午前	濱崎 寛	藤木 敬晃			
	午後				濱崎 寛	
泌尿器科	午後				加藤 琢磨	
皮膚科	午後	第1・3・5週 山村 健太郎 第2週 松井 友希 第4週 鈴木 幸奈				
歯科	午後		十河 京子			十河 京子

※外来診察は予約制を基本としています。診察予約につきましては地域医療連携室へお問い合わせ下さい。

アクセス

〒761-0193

高松市新田町乙8番地

地域医療連携室

TEL：087-841-2162

FAX：087-841-2178

お車をご利用の方

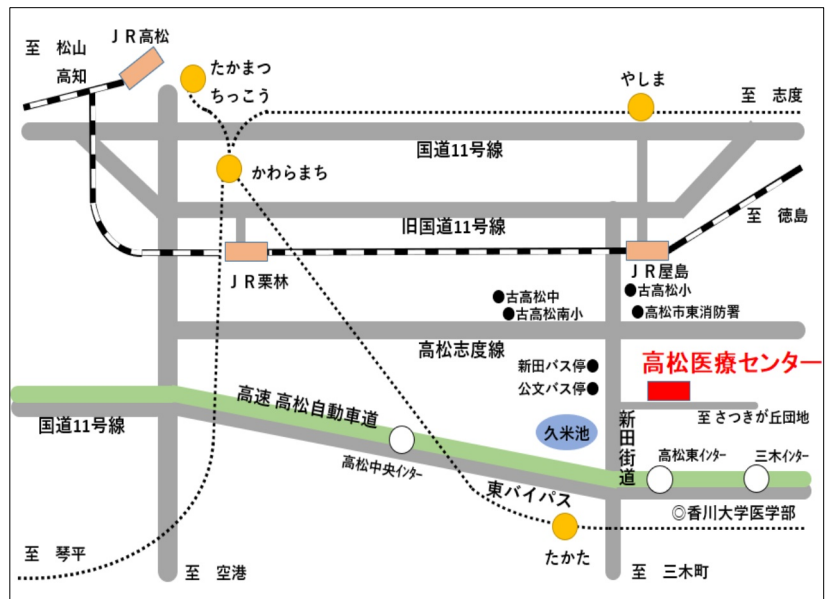
J R屋島駅西側(馬場先)から南へ延びる新田街道の途中、信号機のある三叉路を東に上がった丘陵地にあります。駐車場は無料。

バスをご利用の方

ことでんバス『大学病院線』乗車

(起点：高松駅 終点：ことでん高田駅)

『高松医療センター』下車



独立行政法人 国立病院機構 **高松医療センター**
NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION TAKAMATSU MEDICAL CENTER

発行責任者：院長 市原 典子

編集責任者：副院長 東條 泰典

こちらのQRコードから当院の
ホームページをご覧ください

